

あかげ和牛共励会が東京市場で、特別推奨牛に津留孝二さん



ロースしんも大きくかぶりも申し分ない」と評された。

褒章授与式で穴見代表理事は「震災で今回やるかどうか悩んだが、関係者のおかげで開催することができた。出品者は共励会の成果を励みとして今後にも努力してほしい」とあいさつし、被災地では県や農水省などの早い立ち上げにより、畜舎の新築や雌牛の導入などが行われることを報告。来賓で東京食肉市場(株)の狩谷哲夫専務があいさつし「これまでのサシ一辺倒から赤身志向となってきた中、あか牛の評価が高まっている。共励会を機に増頭に取組んでほしい」と期待した。特別推奨牛以外では、推奨牛を日置一誠さん、東洋一さん、(有)神内ファーム21が受賞し、いずれも受賞牛は(株)ミートコンパニオンが落札した。

馬肉産業再建に注力、熊本馬刺し協議会総会で菅会長が年度方針



熊本県馬刺し安全・安心推進協議会(菅浩光会長、千興ファーム社長)は15日、熊本市のホテルで第5回定時総会を開き、平成28年度の活動方針案など上程議案すべてを全会一致で承認、そのあと、藤本健副会長(フジチク専務)が熊本地震からの復興に向け緊急決議文を読みあげ、これを採択した。

冒頭、菅会長は生体馬不足や震災の影響に伴うと畜施設の損壊で県内の馬肉生産量が震災前の半分ほどの水準に減少していると報告。本年度の活動方針として、まずはと畜メーカーを中心に会員が一致団結し、震災前水準まで供給量を回復させていくことが必要だと強調、同時に協議会独自のホームページの立ち上げや馬肉の栄養分析評価を通じてヘルシーな「熊本馬刺し」の優位性についての情報を全国にアピールしていきたいと語った。

一方、菅会長は総会后、地震被害で操業停止が続く自社の食肉センターの再稼働の見通しについて、完全復旧には1―2年ほどの時間がかかると説明。6月から県内の別のと畜施設(熊本中央食肉センター)で生体馬の解体作業を始めるなど震災前の3分の1の規模まで出荷体制が戻りつつあると話した。